

【日露関係史・日本史・ロシア史】

日本領樺太・千島からソ連領サハリン州へ

一九四五年—一九四七年

日本領樺太・千島がソ連領サハリン州へ移行する過程は、ソ連時代には半ばタブーであった。公文書館に保存されていた「極秘」文書が一九九二年に公開され、ようやくその時代の全容が知られることになる。本書は、民政局によって指導された混乱の一年半を各方面において再現、検証していく。

エレナ・サヴェーリエヴァ著、小山西道子訳、サハリン・樺太史研究会監修
A5判上製、192頁
定価（本体2200円＋税）
2015年11月15日刊

16 ドイツ領占領地ケーニヒスベルクの例

17 サハリンの日本人の状況

18 日本人の引き揚げ

19 ソ連人の南サハリン移住の開始

20 ソ連人サハリン移住者の出身地

21 サハリン州の誕生

補遺

最後の樺太庁長官 大津敏男について

南サハリン州民政局長官 ドミトリー・ニコ

ラーエヴィチ・クリューコフについて

解説

千島・樺太の国境・植民・戦争 天野尚樹

旧住民から見たサハリン島の戦後四年間 中山大将

訳者あとがき／地図／年表／地名索引

【著者・訳者・解題者紹介】

エレナ・サヴェーリエヴァ

サハリン州文化省文化遺産保全部長。

小山西道子（おさない・みちこ）

翻訳家。訳書にN・ヴィシネフスキー著『トナ

カイ王——北方先住民のサハリン史』（成文社）。

また、『異郷に生きる』——V各巻（成文社）に

種々の論文を掲載している。

天野 尚樹（あまの・なおき）

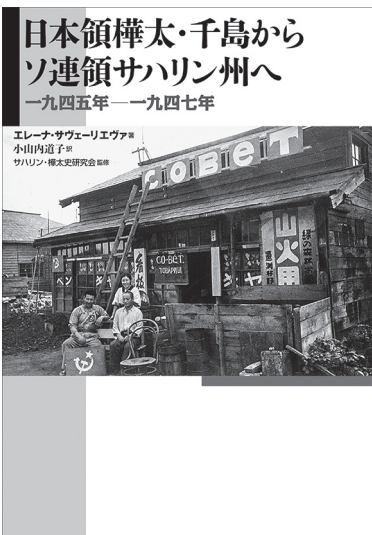
北海道情報大学講師、北海道大学スラブ・ユー

ラシア研究センター学術研究員。

中山 大将（ななかやま・たいしょう）

京都大学地域研究統合情報センター助教。

- 【目次】
- はじめに
- 1 ソ連軍の樺太進駐直後の混乱期
 - 2 軍政府による施策——敵戒体制下の漁業
 - 3 民政局の創設——事態の正常化へ
 - 4 ソ連民政局最初の司令書
 - 5 民政局の課題と政策——社会主義制度の導入
 - 6 全分野における国有化の実施と新法制
 - 7 南サハリンの産業の現況と復興への方策
 - 8 地名の変更——日本語名からロシア語名へ
 - 9 教育・学校
 - 10 医療問題
 - 11 住宅問題
 - 12 新聞・ラジオの復興とイデオロギー教育
 - 13 ソ連の祝日と日本人
 - 14 宗教に関わる問題
 - 15 文化活動と娯楽



日本領樺太・千島から

ソ連領サハリン州へ

一九四五年—一九四七年

エレナ・サヴェーリエヴァ著
小山西道子訳
サハリン・樺太史研究会監修

成文社

TEL 〇四五（三三三） 六五一五
FAX 〇四五（三三六） 二〇六四

エレナ・サヴェーリエヴァ著、小山西道子訳

サハリン・樺太史研究会監修

日本領樺太・千島からソ連領サハリン州へ

一九四五年—一九四七年

ISBN978-4-86520-014-0 C0022 ¥2200E

書店（帖合）印

部数

定価

（本体 2,200 円＋税）

ご担当

成文社

<http://www.seibunsha.net/>

〒240-0003 横浜市保土ヶ谷区天王町 2-42-2

TEL. 045-332-6515 FAX. 045-336-2064

ご注文の際には左記注文書をご利用ください。直接注文いただいても構いません。

既刊関連書一覧 (価格は税抜)

歴史	N・ウインネフスキー著 小山内道子訳 トナカイ王 北方先住民のサハリン史 四六判上製 2224頁 2000円 978-4-915730-52-8
歴史	長縄光男著 ニコライ堂遺聞 四六判上製 416頁 3800円 978-4-915730-57-3
歴史	ポタルコ・ビョートル著 白系ロシア人とニッポン A5判上製 2224頁 2400円 978-4-915730-81-8
歴史	沢田和彦著 日露交流都市物語 A5判上製 4224頁 4200円 978-4-86520-003-4
歴史	太田丈太郎著 「ロシア・モダニズム」を生きる A5判上製 424頁 5000円 978-4-86520-009-6
歴史	神長英輔著 「北洋」の誕生 A5判上製 280頁 3500円 978-4-86520-008-9
歴史	長縄光男 沢田和彦編 異郷に生きる A5判上製 274頁 2800円 978-4-915730-29-0
歴史	中村喜和 安井亮平、長縄光男、長與進編 遙かなり、わが故郷 A5判上製 294頁 3000円 978-4-915730-48-1
歴史	中村喜和 長縄光男、ポタルコ・ビョートル編 異郷に生きるⅣ A5判上製 250頁 2600円 978-4-915730-69-6
歴史	中村喜和、長縄光男、ポタルコ・ビョートル編 異郷に生きるⅤ A5判上製 368頁 3600円 978-4-915730-80-1
歴史	松山大学編 マツヤマの記憶 四六判上製 464頁 2000円 978-4-915730-45-0
歴史	日露戦争研究会編 日露戦争研究の新視点 A5判上製 544頁 6000円 978-4-915730-49-8

サハリン・ポロナイスク(敷舎)の先住民集落「オタス」で「トナカイ王」と呼ばれたヤクート人ドミートリー・ウイノクーロフ。かれは故郷ヤクチア(現・サハ共和国)の独立に向け、日本の支援を求めて活動した。戦前、日本とソ連に翻弄された北方先住民たちの貴重な記録。2006

明治という新しい時代の息吹を胸に、その時代の形成に何ほかの寄与をなさんとした人々。祖国を離れ新生日本の誕生に己の人生をかけたロシア人たちと、その姿に胸打たれ後を追った日本人たち。ニコライ堂に集った人々の栄光、挫折、そして再生が描かれる。2007

来日した外国人のなかで、ロシア人が最も多かった時代があった。一九一七年の十月革命後に革命軍に抗して戦い、敗れて亡命した白系ロシア人たちが、ソ連時代には顧みられなかった彼らを、日露関係史を専門とするロシア人研究者が入念に掘り起こして紹介する。2010

江戸時代から昭和時代前半までの日露交流史上の事象と人物を取り上げ、関係する都市別に紹介。国内外の基本文献はもとより、日本正教会機関誌の記事、外事警察の記録、各地の郷土資料、ロシア語雑誌の記事、全国・地方紙の記事を利用し、多くの新事実を発掘していく。2014

一九〇年代から三〇年代まで、日本とロシアで交わされた、そのネットワークに迫る。個々の作品やロシアの関わり、その彩りゆたかなネットワーク。それらを本邦初公開の資料を使って鮮やかに蘇らせる。掘り起こされる日露交流新史。2014

北洋とは何か、北洋漁業とは何か。19世紀半ば以降のその通史(「北洋」を概観し、そこに関わった人物たちの生涯(Ⅱ人)を辿りながら、北洋(漁業)の歴史の語り方そのもの(Ⅲ物語)を問うていく。いまなお形を変えながら語り継がれている物語に迫る。2014

日本にやって来たロシア人たち―その消息の多くは知られていない。かれらは、文学、思想、芸術の分野だけでなく、日常生活の次元において、いかなる痕跡をとどめているのか。数奇な運命を辿った人びとの足跡を追うことも、かれらが見た日本を浮かび上がらせる。2001

鎖国時代の日本にやってきたロシアの人や文化。開国後に赴任したハテヘルブルクで榎本武揚が見たもの。大陸や半島、島嶼で出会うことになる日露の人々と文化の交流。日本とロシアのあいだで交わされた跡を辿ること。日露交流を多面的に描き出す、好評の第三弾。2005

ポーランド、東シベリア、ウラジウオストーク、北朝鮮、南米、北米。ロシア、函館、東京、ソ連、そしてキューバ。時代に翻弄され、数奇な運命を辿ることになったロシアの人びと。さまざまな地域、時代における日露交流の記録を掘り起こして好評のシリーズ第四弾。2008

幕末の開港とともにやって来て発展したロシア正教会。日露戦争、日露協商、ロシア革命、大陸での日ソの対峙、そして戦後。その間にも多様な形で続けられてきた交流の歴史。さまざまな地域、時期における日露交流の記録を掘り起こして好評のシリーズ第五弾。2010

マツヤマ! そう叫んで投降するロシア兵がいたという。国際法を遵守して近代国家を目指した日本。実際に捕虜を迎えた市民たち。捕虜受け入れの実相。国内の他の収容所との比較。日露の収容所比較。ロシア側からの視点などを包摂して、その実態を新たに検証する。2004

戦争に大きく関わっていた欧米列強。戦場となった朝鮮半島と中国、戦いの影響を受けざるをえなかったアジア諸国。当事国であった日露、とくにロシア側の実態を明らかにするとともに、従来の研究に欠けていた新たな視角と方法を駆使して百年前の戦争の実相に迫る。2005

書店(帖合)印	ご担当	書名	注文数
		トナカイ王	
		ニコライ堂遺聞	
		白系ロシア人とニッポン	
		日露交流都市物語	
		「ロシア・モダニズム」を生きる	
		「北洋」の誕生	
		異郷に生きる	
		遙かなり、わが故郷	
		異郷に生きるⅣ	
		異郷に生きるⅤ	
		マツヤマの記憶	
		日露戦争研究の新視点	
		成文社	TEL 045 (332) 6515 FAX 045 (336) 2064